

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702602
法人名	有限会社 星の里
事業所名	グループホーム星ヶ丘
所在地	福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘3-5-21
自己評価作成日	平成23年10月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月28日	評価結果確定日	平成23年12月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で開設8年目を迎え、地域に根付いたグループホームになっている。理念の中核である「家族と思い・思われる関係作り」も以前より確実に実践できている。認知症に伴う行動障害への対処は、専門病院と連携を取りながら行い、健康面も、週1回の往診と訪問看護で利用者さんとご家族に安心していただけていると思う。6名定員という少人数の利点を最大限活かせるように、一人一人に寄り添った介護を心掛けている。特に外出には力を入れており、利用者さんも大変喜ばれている。介護の人材不足や離職率が大きな社会問題になっている昨今においても、勤続年数が長いスタッフが大半を占めているので、他施設との差別化も出来ていると思う。利用者さんとそのご家族だけでなく、多くの方々に支えられて運営している正真正銘の地域密着型サービスであると自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改造して運営されており、新興住宅地の中に自然に溶け込んでいる。近隣には大規模ショッピングモールや市民センターが位置し、公園等も整備されており、利便性が高い周辺環境を有している。定員6名という少人数での暮らしが、安定している職員体制を活かした馴染みの関係性の中で営まれており、家庭的な生活空間や各医療機関との連携体制の充実を、入居者、家族の安心感へとつなげている。開設8年目というこれまでの実績に加え、現在、管理者は「認知症介護指導者養成研修」を受講しており、様々な関係者との連携を活かしながら、事業所理念の更なる追求や、地域全体の認知症支援、介護サービスの向上に向けた今後の活動展開が大いに期待されます。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 私達スタッフは、個々に入居された方みなさまを家族と思い、家族と思われるよう努めます。2. 私達スタッフは、ここに入居された方みなさまの暮らしを支える関係者すべてにとって道しるべとなり、困った時の方針を示していけるよう努めます。3. 私達スタッフは、入居されたみなさまの自己選択・自己決定を尊重し、地域の中で自律した生活を支援することに努めます。の三つを基本理念として日々実践している。	地域密着型サービスとしての独自の理念は、ミーティングの際の判断基準として位置付けられる等、実践へとつなげる取り組みがある。家族や地域、医療機関、行政等、様々な関係者との連携を図りながら、少人数(定員6名)の利点を活かした、本質的な支援を目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し「こども110番のいえ」にも登録している。また月1回のふれあい昼食会には約7年参加を続けている。	管理者の実家を改造して運営されており、近隣の方との馴染みの関係を活かした交流が行われている。自治会に加入し、地域行事への参加や道路愛護に気を配りながら散歩をする等、地域の一員としてのつながりを大事にしている。職員も地域の一員として活動され、その関係をきっかけとして、毎月の「ふれあい昼食会」に長年参加を続けている。	管理者は現在、東京センターの「認知症介護指導者養成研修」を受講している。事業所内への反映はもとより、行政や地域、協議会等との連携を図りながら、地域全体の認知症ケアの質の向上への取り組みや、福祉拠点としての活動展開が大いに期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が現在「認知症介護指導者研修」を受講しているため、今後は活動の幅を広げられると考えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・自己評価や実地指導があった場合は会議において説明している。	2ヶ月に1回、定期的開催されている。記録も整備されており、各委員の意見や評価等、会議のやりとりが明確で、次のサービスへと反映出来る内容となっている。ホームの現状報告はもとより、家族と地域や包括支援センター担当者が一同に会する機会として、情報共有を図り、意見や助言を運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターからの入居問い合わせが多く、良好な関係が出来ている。	グループホーム協議会(Gブロック)の幹事として、行政や地域包括支援センターとの連携を図りながら、研修会や情報の共有、コミュニケーション作りを行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践している。	現状や想定されるリスク等、様々な視点から本人本位の検討を行い、家族や医師との連携を密にしながら、身体拘束をしないケアについて方針を共有するよう努めている。グループホーム協議会の研修や内部での勉強会において、認知症の様々な症状や禁止の対象となる具体的な行為、身体拘束の弊害について、共通理解を深める取り組みを行っている。	

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対して正しい知識を持ってもらえるよう、スタッフに対して研修を行っている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に自立支援事業を利用している方がいるので、概ね理解出来ている。	管理者は、権利擁護に関する制度について、現在までの活用実績や支援の過程から、制度への理解を深めている。また、勉強会にて、職員への周知を図っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の意義を理解するためにも、全職員が学ぶ機会を確保していくことが望まれます。また、家族や地域に向けた情報発信にも期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を文書の交付と口頭による説明を十分時間を掛けて行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティングを有効に使い、要望や苦情の対応に活かしている。	毎月の請求書送付時には、個別の日常を写した写真や運営推進会議議事録を同封するなど、積極的に情報共有を図っている。運営推進会議や、日常の家族来訪時の機会を捉えて、意見や要望を収集している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者と管理者が同一で、介護職員としても業務に当たっており、風通しのよい職場環境づくりに努めている。	新たに主任職を設定したことで、運営者と職員との間に入り、意見や提案が更にスムーズに出来るようになってきた。ミーティングの記録には提案者の氏名が記され、内容や管理者がどう応えたかを明記されており、充実した検討内容が確認できる。また職員アンケートを実施したことで、あらためて職員個々を理解する機会にもなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや面談を通して、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集は、職安の紹介を中心に行っている。	採用にあたっては、確たる条件を示し、応募者が納得された状況で採用を行っている。子育て中等、それぞれの職員の事情等にも配慮された採用となり、現在、職員状況は安定している。資格取得や、更なるステップアップを奨励しており、実際に成果が出ている。	

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理マニュアルを使い、職員に研修している。	倫理マニュアルを用いて、コンプライアンスに関する内部研修を実施している。入居者の権利をリビングに掲示する等、日常の中で意識した支援となるよう心がけている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTだけでなく、グループホーム協議会の研修にも積極的に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や、事業者連絡会の交流会に参加する等、外部と積極的に交流している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のシートを導入して、入居までの生活がケアに活かせるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式のシートを導入して、入居までの生活がケアに活かせるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの状態や家族の要望に沿って、他のサービス事業所を紹介したりしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある「家族と思い、家族と思われる関係づくり」に努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念にもある「家族と思い、家族と思われる関係づくり」に努めている。「関係者すべてにとっての道しるべとなるよう」努めている。		

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた家具や布団を持ってきてもらうようお願いしている。	センター方式等で得られたアセスメント情報から、馴染みの関係性の把握に努めている。入居前に住んでいた家や場所への思いを大切に捉え、年末年始の帰宅や、ドライブの際に立ち寄るなどの支援を行っている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかなケアを提供している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、お見舞いに顔を出している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『利用者本位』は認知症介護の基本であると考えて実践している。	センター方式のシートを活用し、生活暦やライフスタイルに関する情報収集を行うとともに、日々の記録には、身体状況とともに、心情の変化についても視点を持った記載が行われており、職員間で共有しながら、思いや意向の把握につなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを導入して、入居までの生活がケアに活かせるよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチェック表に変化がわかるよう記録している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフでモニタリングを行いながら、介護計画書に反映している。	本人、家族の意向や現状を検討し、介護計画へ反映させている。モニタリングには各職員が主体的にかかわり、それぞれの意見を検討、反映している。評価シートも、これまでの経過が明確になるよう工夫されている。	

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表に変化がわかるよう記録している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかなケアを提供している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターの行事に参加したり、近隣のショッピングセンターへの外出等、地域資源を積極的に利用している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意向や経済状況を十分に理解し、受診支援している。	かかりつけ医への受診の際は、日々の記録等のファイルを持って職員が同行し、正確な情報提供に努めている。協力医による週1回の往診や、専門医との連携も図りながら、充実した医療との連携体制を整備している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアチェック表に変化がわかるよう記録し、看護職への申し送りを徹底している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を密にして、利用者本人・家族の意向を踏まえ支援している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取りの指針』を定めている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時の説明や状態の変化に応じた話し合いを重ね、方針を共有している。様々な医療機関との充実した連携体制を構築し、事業所としての出来る限りの支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、研修を実施している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成し、研修を実施している。	事業所の避難訓練を実施し、避難場所についても様々なケースを検討している。また、入居者の方々とともに、市民センターの防災研修に参加する等の連携も見られる。	運営推進会議等を活用しながら、地域資源との連携の充実や、備蓄品についての検討が期待されます。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いが家族と思えるような声掛けを行っている。	家族と思い、家族と思われる関係性を築いていけるよう支援しながらも、馴れ合いとならないよう、声かけや対応について指導を行っている。自己選択・自己決定の場面を支援していくとする、理念の実践に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事に対しても強制しないよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や天候含め、積極的に外出支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に自由に洋服を選んでもらっている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭きなどを手伝ってもらえるよう声掛けを行っている。	各自ランチョンマットを敷き、小鉢等の食器からも細やかな配慮が伝わってくる。調理の下ごしらえや味付けに、個々の力を発揮してもらっている。1ヶ月分の献立表からは、日常のメニューの充実に加え、外食の機会も多く、「食」を楽しむ取り組みは充実している。	

福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、形状を工夫するなどを行い、全量摂取してもらえるよう努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科と、毎食後の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者には、時間毎のトイレ誘導を支援している。	排泄の自立はもとより、経済面の負担軽減も目的としながら、個別のニーズに対応している。ラジオ体操や機能訓練を日課とし、身体機能の維持や活用に向けた取り組みを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を提供し、散歩も積極的に行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在週2～3回の入浴を支援している。	入居時に、これまでの生活パターンを把握し、入浴を支援している。入浴時間は個人の希望に合わせて、体調や状態を鑑み声をかけたり、1番風呂の希望にも対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、本人が休みたい時に就寝してもらっている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時の申し送りを徹底し、状況の変化を主治医に伝えるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせて、出来ることのお手伝いをお願いしている。		



福岡県 グループホーム 星ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の意向を尊重出来るよう努めている。</p>	<p>少人数という利点を活かし、その日の天候や希望、体調等に応じて、近くの公園や大型ショッピングセンターへの散歩や外出に出かけている。市民センターの昼食会や、近隣のファミリーレストランの利用等、外食の機会も多い。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金管理は行っていない。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙は自由に出してもらっているが、電話が事務所に1台しかない為、スタッフに一声掛けて使用してもらっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家改造型のグループホームなので、安心感を与えられている。</p>	<p>民家を改造しているため、家庭的な雰囲気と、生活感ある共用空間となっている。大きな食卓テーブルやゆったりとしたソファが置かれ、思い思いにくつろげる場所となっている。採光もよく常に換気に注意された清潔な雰囲気である。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ハード面に限界はあるが、工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や布団を持ってきてもらうようお願いしている。</p>	<p>どの部屋も窓が大きく採光がよい。入居時に持込まれた家具や、趣味や生活習慣が継続できるようパソコンやラジオ等も置かれた居室もあり、その人らしく過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の能力が低下しないよう支援している。</p>		